

失敗に学ぶ

狭山市立教育センター

所長 鈴木 浩明

新年度がスタートして3ヶ月が経ちました。新しい学級や仲間にも慣れ、多くの皆さんが学校生活に取り組んでいることと思います。

そんな中で、「自分の目標が達成できない」「頑張っているのに思い通りにいかない」「友達関係がうまくいかない」などという悩みや、不安や、苛立ちを感じている人もいないでしょうか。

1学期、学校行事がたくさんありました。それぞれ自身の目標を達成できた人もいれば、目標が達成できなかった人もいることでしょう。小学校のミニバス大会で、中学校の学校総合体育大会で、敗北感や挫折感を味わった人もいることでしょう。1学期のまとめのテストや、定期テストが実施されておりますが、「テスト勉強があまりうまく進んでいない」と少し不安を感じている人がいるかも知れません。あるいは、最近、友達や先輩とうまくいかないことがあって、気分が晴れずに落ち込んだりしている人もいるかも知れません。

実は、そうした敗北感や友達関係のつまずき、挫折を味わうことは、私たちの多くが多かれ少なかれ経験することなのです。失敗しないようにすることよりもはるかに大切なことは、一時的に「辛い」と感じられる経験を、いかにプラスに転換できるかということです。

皆さんには、挫折経験を乗り越えるたくましさ、しなやかさとしたたかさを身に付けてほしいと考えています。辛さを乗り越えて自らを奮い立たせる精神的なたくましさ、敗れても何度でも立ち上がる強靭さは、カッコいいと思いませんか。

私自身も、振り返ってみれば、失敗と挫折の連続で、今でも日々反省ばかりの人生です。私のことはともかく、江戸時代を築いた徳川家康も敗北と挫折と忍耐の日々を送った人でした。家康には、「人の一生というものは、重い荷を背負って遠い道に行くようなものだ。急いではいけない。勝つことばかり知って、負けを知らないことは危険である。」という名言があります。

あの家康の人生も、辛い経験と失敗の連続だったと思うと、勇気と自信が湧いてきませんか。多少の苛立ちや不安、人間関係の悩み、失敗や挫折は、私たちをより強くたくましく鍛えてくれる絶好の経験なのです。失敗から学び、再び立ち上がる。そんな強さを、皆さんに身に付けてほしいと願っています。